第６課　キリストのために苦しむ

【暗唱聖句】

「あなたがたが召されたのはこのためです。というのは、キリストもあなたがたのために苦しみを受け、その足跡に続くようにと、模範を残されたからです」第一ペテロ2:21

【今週のテーマ】

ペテロは手紙の中で、「しばらくの間、苦しまなければならない」と繰り返し述べています。実際に初代教会においては様々な困難がありました。しかし、それすら神様のご計画であり、わたしたちの成長のために用いられます。今週はペテロ第一の手紙の大きな主題である「主のための苦しみ」について目を向けます。

【日曜日　初期のクリスチャンへの迫害】

「それゆえ、あなたがたは、心から喜んでいるのです。今しばらくの間、いろいろな試練に悩まねばならないかもしれませんが」第一ペテロ1:6

「しかし、あらゆる恵みの源である神、すなわち、キリスト・イエスを通してあなたがたを永遠の栄光へ招いてくださった神御自身が、しばらくの間苦しんだあなたがたを完全な者とし、強め、力づけ、揺らぐことがないようにしてくださいます」第一ペテロ5:10

初期の頃のクリスチャンに対して、ローマ帝国は迫害するようになります。当時の文献の中にもクリスチャンに対してどう対処すべきであるかポントスとビティニア地方の総督であったプリニウスからトラヤヌス帝に助言を求めたり、実際に処刑したと述べたりしています。1世紀の後半に皇帝ネロやドミティアヌスが納めていた頃の迫害が特に激しかったことで知られています。ペテロの手紙の中にも、「いろいろな試練に悩まねばならないかもしれない」とか「しばらくの間苦しむ」という言葉が書かれてあり、またただ、第一ペテロの手紙で触れられているのは、そこまで激しいものではなく、地方に限定されたものであり、侮辱や非難といったものが多かったようです。

【月曜日　苦しみとキリストの模範】

「しかし、義のために苦しみを受けるのであれば、幸いです。人々を恐れたり、心を乱したりしてはいけません」第一ペテロ3:14

ペテロは「義のために苦しみを受けるのであれば幸いです」と言っています。この言葉がキリストご自身が「義のために迫害される人々は幸いである」と語っている言葉から引用したのでしょう。ペテロは実際に信仰のゆえに様々な迫害が起こったとき、キリストの言葉を思い出したのです。キリストのゆえに苦しむとき、神様を信じているのになぜと思います。なぜの答えはすぐにはわからないものです。しかし、はっきりわかることは、その人は幸いであると主が言われたことです。この言葉によってわたしたちは恐れから解放されます。

「心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい」第一ペテロ3:15

ペテロは人々を恐れてはならないと言った後に、求める者には希望について説明しないさいと続けます。これは迫害の中にあったとしても、わたしたちが何を信じ、何に希望を置いているのか弁明する機会があることを示しています。ただし、そのとき「穏やかに、敬意をもって、正しい良心で」（第一ペテロ3:16）説明することが大切だと付け加えます。自分たちが正しい、あなた方は間違っているという態度では相手は心を閉ざしてしまい、福音を伝えることはできません。

【火曜日　火のような試練】

「愛する人たち、あなたがたを試みるために身にふりかかる火のような試練を、何か思いがけないことが生じたかのように、驚き怪しんではなりません」第一ペテロ4:12

火のような試練が臨むとき、なぜ神様を信じているのにこのような試練が来るのかと驚き、怪しんではいけないとペテロは語ります。パウロは「キリスト・イエスに結ばれて信心深く生きようとする人は皆、迫害を受けます」（第二テモテ3:12）とさえ言っていますし、黙示録では「竜（サタン）は女（教会）に対して激しく怒り、その子孫の残りの者たち、すなわち、神の掟を守り、イエスの証しを守りとおしている者たちと戦おうとして出て行った」（黙示録12:17）と語っています。ペテロはそのときにはむしろ喜びなさいと教えます。

「むしろ、キリストの苦しみにあずかればあずかるほど喜びなさい。それは、キリストの栄光が現れるときにも、喜びに満ちあふれるためです」第一ペテロ4:13

なぜ試練の中で喜ぶのか、それはキリストが再びおいでになるときにも、喜びに満ち溢れることになるからです。そして、キリストの名のゆえに非難されるとしたら、それは幸いなことなのだと続けます。

「あなたがたはキリストの名のために非難されるなら、幸いです。栄光の霊、すなわち神の霊が、あなたがたの上にとどまってくださるからです」第一ペテロ4:14

神様の霊が留まっているからこそ、迫害にあうのだと言っています。神様の霊が留まっている、それは神の子のしるしであり、永遠のみ国に招かれ救われているものとしてのしるしです。サタンは神の子を憎んでいます。それは当然のことであり、驚き怪しむことではないのです。

【水曜日　裁きと神の民】

「今こそ、神の家から裁きが始まる時です」第一ペテロ4:17

パテロは、今こそ神の家から裁きが始まる時だと言っています。迫害そのものが神様の裁きではもちろんありません。神の子に対する神様の裁きとは正しい裁きです。世の人々は間違ったはかりでクリスチャンを裁くのに対して、神様は正しいはかりで、神の子の正しさが証明してくださいます。イエス様は一人のやもめの叫びに対して、次のように言われました。

「まして神は、昼も夜も叫び求めている選ばれた人たちのために裁きを行わずに、彼らをいつまでもほうっておかれることがあろうか」ルカ18:7

神の家から裁きが始まるとは、神様を信じる者たちから救いは始まると言い換えることができるでしょう。それゆえ、彼らはこう喜びの声をあげるのです。

「主よ、だれがあなたの名を畏れず、たたえずにおられましょうか。聖なる方は、あなただけ。すべての国民が、来て、あなたの前にひれ伏すでしょう。あなたの正しい裁きが、明らかになったからです。」黙示録15:4

【木曜日　試練の中における信仰】

「身を慎んで目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています」第一ペテロ5:8

なぜ試練や苦しみがあるのか。これは多くの人の神様に対する疑問の一つとなっています。少なくてもわかることは、試練はサタンから来ているということです。そして、その背景には善と悪、神とサタンとの戦いがあり、その中にわたしたちも巻き込まれているということです。多くの人は何か悪いことをしたから、その罰として苦しんでいるのだと言いますが、聖書はそれを否定します。では、なぜ試練や苦しみがあるのか、その答えはわかりません。おそらく、一人ひとりによってその理由は異なるでしょうし、意味がなく許されているのでもありません。すべてが益となっていきます。わたしたちにできることは、ただ主を信じ、委ねることです。

「だから、神の御心によって苦しみを受ける人は、善い行いをし続けて、真実であられる創造主に自分の魂をゆだねなさい」第一ペテロ4:19